
Editorial

2015年10月、がんの領域に新しい雑誌を発行する運びとなりました。

日進月歩で進みゆく医療の進歩にあって、とりわけがんを取り巻く環境の変化は著しいものがあります。

がん患者・サバイバーが増加したこと、治療・副作用対策が日々複雑化していること、緩和ケアへのニーズが高まっていること……。

変化には、それに相当する理由があります。

しかし、その変化は一体誰に求められているのでしょうか？

……それはきっと、私たちと、この本に興味をもち、手に取ってくださった読者の皆様だと思うのです。

『Cancer Board Square』は、各施設のCancer Boardを見学するところから始まりました。

職種でもなく、臓器でもなく、ひとりの患者のために繰り広げられるディスカッションのなかに、私たちは「がんという専門性」の息吹を感じました。

役割を分担するのではなく、ひとつの役割を様々な視点からシェアする、そんな医療が求められていると感じたのです。

それと同時に、診断からBSCという長いスパンを見通す必要があるがん領域において、まだまだその基盤たるベーシックな知識、考え方を広く伝えていく必要があると確信しました。

『Cancer Board Square』には、がんのプロフェッショナルになるために身につけるべき素養が、詰め込まれています。

がん患者と向き合うために。

医療者として、そして一人の人間として学ぶべきことは、一生分あります。

もし『Cancer Board Square』がその第一歩となれるのであれば、これ以上嬉しく、誇らしいことはありません。

本号をもって、私たちも第一歩を踏み出しました。

一緒にがん医療の世界を変えていきましょう。

編集担当 境田